

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年8月24日（月）～平成27年8月30日（日）【第35週】の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は6.88人と前週（6.58人）からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.16人と前週（3.55人）からほぼ横ばいですが、例年より低いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.03人と前週（1.97人）からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



知っておきたい感染症～突発性発疹～

突発性発疹は、ヒトヘルペスウイルス6型及び7型に感染することにより、発熱や発疹などが出現する感染症です。生後6か月～1歳までの乳幼児がかかりやすく、わが国では、2歳までにほとんどの小児が感染します。

突発性発疹ってどんな病気？

➤ 感染経路

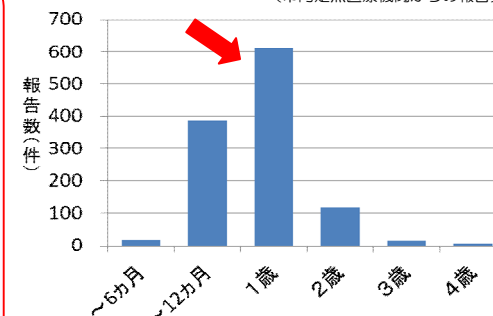
身近な家族など成人の唾液に含まれるウイルスによる感染

➤ 潜伏期間：約10日

➤ 症状

突然の発熱（38℃以上）がおおむね3日間程度続き、解熱とともに発疹が出現します。発熱時でも比較的元気がよく、食欲もあることが多いですが、熱が高いため熱性けいれんを合併することはよく知られています。特別な予防方法や治療方法はありませんが、発疹は数日以内に消失し、通常予後は良好です。しかし、ときに脳炎などを引き起こすこともあります。

平成26年川崎市突発性発疹年齢別発生状況
(市内定点医療機関からの報告数)



生後半年程度は、母親からの免疫により守られていますが、その後は感染のリスクが高まります。

突発性発疹は、生後初めての高熱の原因になることが多いと言われています。

